

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.355



日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2012年8月29日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6

2013年度予算編成にあたって横浜市長に申し入れ

市民の命とくらしを守る立場で発想の転換を

日本共産党横浜市議団は28日、2013年度予算編成にあたっての申し入れを林文子横浜市長に対して行いました(写真下)。

私・大貫は、昨年3・11の教訓や長引く景気の落ち込みを念頭に、

「市民の命とくらしを守る」という地方自治の精神を市政に反映するためには、これまでの延長線上ではなく、都市のあり方や都市の骨格そのものを変えなければならず、発想の転換が必要だと強調しました。その

上で、「人命被害ゼロ」の立場にたった防災対策、市内企業の育成で横浜経済を潤す経済・産業政策、住みやすさを競う「都市間競争」、市民生活の充実に予算を「選択と集中」するなど、申し入れ内容の概要を説明しました。

林市長は、示唆に富んだ要望内容であり、検討させてもらおうと応えました。



Twitter facebook ご覧ください

「防災計画」の目的・目標は「人命被害ゼロ」に 「横浜市防災計画」（震災対策編）の修正にあたって申し入れ

横浜市では「横浜市防災計画」（震災対策編）の見直し・修正が行われていますが、日本共産党横浜市議団は28日、この防災計画の修正にあたって横浜市長あてに申し入れを行い、大場茂美副市長と対談しました（写真右）。



申し入れて、国の「防災基本計画」について災害対策の目的を「災害応急対策、災害復旧、その他等」に偏重し、「国民の生命、身体及び財産を災害から保護する」ことや「災害予防」という最も肝心な視点を軽視しているといわざるを得ないと指摘。

その上で計画では、

- ①目標を人命被害ゼロ＝「ひとりの命も失わない」、「災害を出さない地域・社会の実現」とする
- ②市独自の「被害想定」を策定
- ③最大の未然防止対策を最優先に位置付ける
- ④小学校区規模の地域防災計画の策定
- ⑤全市民対象の防災意識の啓発・訓練を行う—ことを求めています。

懇談で、私・大貫は、メガロポリスやリトル東京を目指すのではなく都市の大本から考え直す時期にきており、人の命を何よりも大切にするという視点で防災計画の見直しを行ってほしいと述べました。

岩崎副団長は、申し入れ書作成にあたって消防局などの当局と話していても計画に一番大事なものは何かということがあまり検討されていないように感じ、心配していると述べました。

大場副市長は、現在、3副市長で分担して分野ごとに計画の見直し作業を進めており、9月には素案が発表できるように調整中だとし、申し入れの内容をしっかりとつかんで、内部で議論していきたいと述べました。

おたのしみ通信

福島第二原発
視察記(2)

シュミレーション

福島第二原発事務所での増田所長によるプレゼンテーションの後は、研修棟に設置された中央制御室のシュミレーターの視察です。説明によれば、この施設は東電の中のエリートで構成する主任と副主任、2人の所員で原発を運転管理しています。

当日行われたシュミレーションでは、今回の被害を受けて今後、同様の津波や地震による電源皆失の状況が起きた際を想定しての模擬訓練です。

訓練を視察して、人数が少ないことからすべてにバタバタとし、計器を見ている職員から中央に座っている副主任と思われる職員に、次々口頭報告がされるため、あたふたしている様子で、状況判断が



福島第二原発の中央制御室シュミレーター
=7月31日

的確にできないと思いました。補助電源も切れて真っ暗になったらどうしようもない状態だと感じました。

東電幹部は公式には口にしていませんが、福島第二原発で今後の事故に対処するシュミレーションを行っていることは、原子炉の再稼働を想定していることにほかなりません。そのこと自体が問題です。

次は、いよいよ放射能防護服を着て原子炉建屋に入ります(左写真)。



やっとなついた来夏

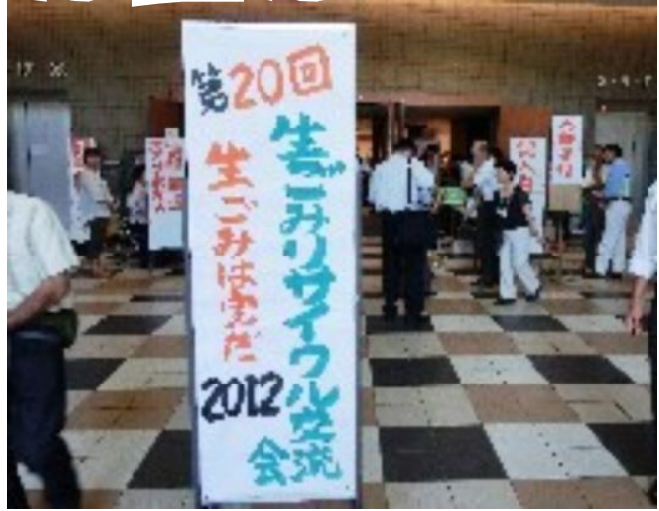
ちゃん

お兄ちゃんはあと一ヶ月で4歳です。妹の来夏(こなつ)は1歳4ヶ月。彼女が泣かずにジジに抱っこされるまで、なんと1週間。はじめはジジがあやすとワ〜ッと泣き出し、ママに抱きついて離れない。そこで、ジジは彼女が近くにいても目を合わせず、なんとなくそばにいて自然なそぶり。その成果がこの写真。

おのりの通信

生ごみは宝だ！

第20回「生ごみリサイクル交流会2012」が21日、「生ごみは宝だ」をキーワードに東京・御茶ノ水の明治大学駿河台キャンパスで開かれました。主催は同交流会実行委員会とNPO勇氣農産物普及・堆肥化推進協会。北海道から沖縄まで360名を超す参加者で、議員も19名含まれていました。私もそのうちの一人です。

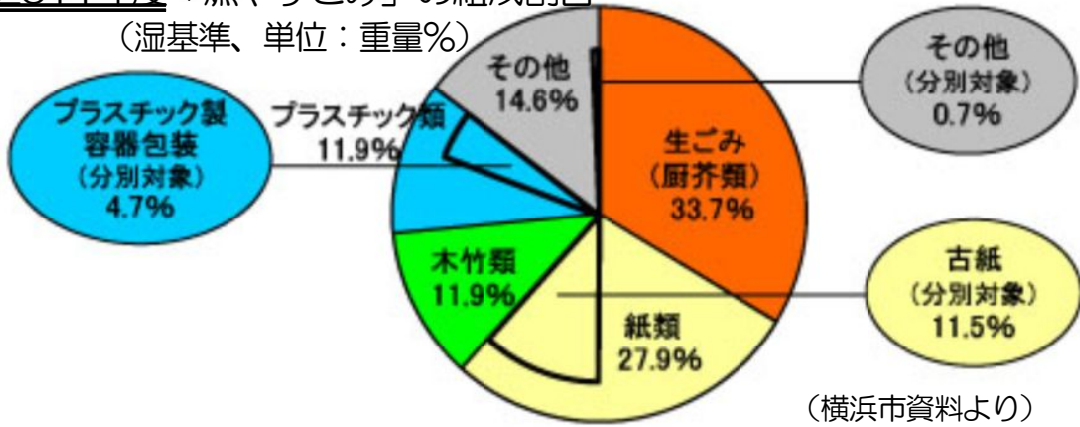


第20回生ごみリサイクル交流会2012会場＝8月21日、明治大学駿河台キャンパス

横浜市2011年度のデータでは、燃やすごみに占める生ごみの割合は33.7%(重量比)です。全国的にも生ごみの減量化が大きな課題になっています。

生ごみリサイクル交流会は、大切な資源である生ごみを燃したり埋めたりせず、堆肥として土へ還す活動を推進し、堆肥を使った豊かな土壌と健康によい農産物や花

2011年度「燃やすごみ」の組成割合 (湿基準、単位：重量%)



づくりを普及している各地の取り組みを交流するもので、毎年夏に開かれています。



ミジソコの独り言 世界の0.25%の国土の日本で世界中の地震の2割が発生しているという。今後30年間にM7程度の地震が南関東で起きる確率は70%で、東大地震研究所の平田直教授は生きていうちに必ず来ると言い切る。備えあれば憂いなし。我が身を守るすべを身に付けよう！(M)